

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援施設ふたば		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子供の困り感について、様々な視点から子どもを理解して、支援を考える際、「感覚統合」の視点から理解することが必要で、他医療関係、専門職との連携を図っています。	・感覚統合の視点「前庭感覚」「固有感覚」「触覚」などの感覚入力と高められるよう、大型遊具など使用できる環境がある事や運動遊び、感覚遊びを中心に活動を取り組んでいます。	・職員研修(感覚統合)・特性の理解・保護者、保育園等への周囲理解してもらっています。
2	・多機能型の事業所のため切れ目なく支援していけることです。	・幼児期から学齢期へと進んでも、慣れたスタッフや活動が継続することで、環境の変化による不安を軽減できるようにしています。 ・小さいことから取り組んできた活動が成長とともに発展し、成功体験を積み重ねられるよう工夫しています。	・幼児期と学齢期では支援のアプローチが異なるため、学齢期や思春期の心理的変化の理解を深めていけるよう努めます。
3	・子どもの特性に合わせた支援と情報共有していることです。	・朝礼や支援後に利用者一人一人に対してスタッフ間で情報の共有を行っています。 ・お休みのスタッフも情報の共有ができるように、ノートの活用も行っていきます。	・スタッフ間の意見を取り入れた、個別支援計画の作成を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との交流の機会が不足していることです。	・「保育所や幼稚園等との交流や地域の子どもと活動する機会」を活動として提供できていません。 ・早期療育のため、療育を経験したほとんどの方が保育所や幼稚園に通園されています。 ・併行通園に向けての療育として位置づけとなっております。	・保護者の方の要望など伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討して行きます。
2	・保護者同士の交流機会の少なさです。	・交流の機会を求める声と、現状で満足との意見が分かれている為、ニーズに応じた柔軟な対応が求められています。 ・保護者会の頻度が年2回ありますが、参加も兼ねているため、交流時間が少なくなっているのが要因と考えます。	・保護者の皆さんのニーズに応じた開催方法を検討していきます。
3	・乳児期に理解してもらって過ごすか、理解されないで過ごすかで、その後の育ちが大きく変わります。	・保護者への特性の理解や前向きに子どもを支えた子育てをしていくことが大切です。	・「配慮や工夫」を一緒に考えていく姿勢をどう伝えていく必要があります。